

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100100		
法人名	株式会社 フロンティア介護		
事業所名	グループホームすみよしの憩		
所在地	岐阜県 可児市 今渡 字鳴子 2348-2		
自己評価作成日	令和5年2月24日	評価結果市町村受理日	令和5年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193100100-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症実践者リーダー、認知症実践者研修を終了し、認知症について熟知している職員が多くいます。その為、認知症の方の上手く言葉に出せない、表せない、不安に対して、職員全員で考え、工夫をして、認知症の方の思いに近づける支援を目指しています。
また、毎日SNSを通じて、生活の様子やレクリエーションの内容、ちょっとした利用者様の表情を投稿しています。近くの家族様は元より、遠くに住まれている親族の方からも「ブログを拝見するのを楽しみにしています。」とお声もいただいています。職員間の関係も良好で、Homeeteと言うアプリを活用し、お互いの良いところを見つけて、褒め合うようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で面会や外出、交流などの制限がある為、身体機能を維持できるように体を動かすレクリエーションを多く取り入れ、体操や廊下の往復など、利用者自身が出来る事で支援している。職員は、毎日、ブログで利用者の様子を発信し、家族の安心につなげている。新型コロナの感染対策では、職員が協力し合い、これまで以上にチーム力が強化されている。管理者を含め職員間でケアや気づきなど、良い所を褒める取り組みで、モチベーションアップと信頼につなげている。プランターで季節の花を育て、整理整頓と掃除が行き届き気持ちの良い環境で、利用者の健康管理も充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念である、住み慣れた地域と職員が連携し、みんなに愛されるより良いグループホームを目指し、質の高い個別のケアを目指すを目標とし、管理者、職員で話し合い、協力しながら、個別のより良いケアに向けて努めている。	法人理念とホーム理念があり、事業所に掲示している。理念をベースに、毎年、介護の目標も標語にし、朝の申し送り時に唱和し、意識化を図っている。その目標の達成度を職員会議で評価し、次年度の目標につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、外出や面会の制約はありますが、地域と手紙のやり取りを行っています。また、SNSなどで情報を発信し、施設の様子を知って頂くことで、グループホームの役割、認知症の方との関わり方を地域の方の多くの方に知っていただくことができていると思います。	自治会に加入し地域の情報は得ているが、コロナ禍で地域の夏祭りや運動会が中止となり、地域住民との交流は途絶えている。隣家とは挨拶を交わし良好な関係にある。コロナ終息後には地域行事への参加や、ボランティア受け入れを再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の知識を十分習得している職員が多くいます。入居申し込みや、電話相談があった際は、丁寧にお話を伺い、家族が認知症になって困っている方に対しては、励ましやアドバイスをお伝えすることもあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、2ヶ月に1回、書面にて施設の様子をお伝えしています。その際に質問や意見などを返信封筒で頂いています。その意見を元に、事故など改善すべきことは改善を行い、評価を頂いたレクリエーションなどは、更にサービスの向上に努めています。	今年度の運営推進会議は書面会議で行っている。入居者状況、運営状況、行事報告、ヒヤリ・事故報告等の内容を議事録とし、配布時に構成メンバーからの意見を募り、その意見は次回の議事録に加えて記載し、関係性を継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村においても、書面等で施設の実情をお伝えしています。また、施設のプログ等も見ているように、施設行事などにも、興味を示され、質問やお褒めの言葉を頂いています。	対面での運営推進会議の開催は市と相談して進めていく予定である。行政主催の研修はオンラインでの開催となり参加している。コロナ感染対策で市や保健所と連絡・相談、助言を得ながら対応し、市、関係機関との連携が強化された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まずは、利用者様の尊厳や人権を守ることが、ケアを行なう上で最も重要であると、どの職員も意識しケアに取り組んでいます。身体拘束の内容についても、定期的に勉強会を行い、正しく理解しています。玄関は防犯上施錠を行っておりますが、それ以外は施錠なく自由に過ごしてみえます。	資質向上研修として身体拘束や虐待について、オンラインでの研修を実施している。職員は数日の期間内に受講ができ、参加もしやすく具体的な事例から学びを深めている。居室と廊下にモニターカメラを設置し、夜間帯のリスク管理の備えを準備している。	定期的に身体拘束や虐待についての研修や話し合いを行っているが、身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会の定期的な開催を議事録として整備されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待についての勉強会を行い、自施設での虐待と思われる行為があった場合は、早急に報告することを徹底し、また家族からの虐待が疑われる場合は、関係機関と協働しながら、速やかに対応します。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行っている。 現在、成年後見制度を利用されている方に対しても、関係者とやり取りを行い支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族は、契約、解約時に不安や分からないことがたくさん出てきます。分かりやすく、ゆっくりと説明を行い、質問に対しても、丁寧にお答えします。改定等に関しては、書面にてお知らせし、質問があった際は、丁寧にお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見、要望があった際は、施設内にとどめることなく、本社等に報告を行い、運営に反映させている。家族が言うことをためらうことがないように、常に手紙等でも「何か要望等あればお知らせください」とお伝えしている。	法人ホームページ内にある事業所ブログを毎日更新しており、利用者の様子を家族等に発信している。毎月の請求書には「すみよし便り」を同封し、隔月実施の血液検査結果や料金改定、衣替え等の案内も都度発送し、利用者情報を共有している。来訪や電話連絡時にも意見や要望を聞くようにし、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やフロア会議、個々の職員の面談を行い、職員が意見や、相談、要望等を言える環境を作っている。その為、フロア会議は活発な意見が沢山あがり、改善に繋がっている。	今年度、管理者はリーダー役から管理職に就いている。コロナ感染症の対応についても職員が一丸となって取り組み、職員のチーム力をより深めている。業務中や会議で意見や提案を聞き、職員を信頼して任せ、やりがいにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与体系を取っており、資格を取得した際には、祝い金も支給される。 また、70代の職員も3名勤務し、生き生きと働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内で資格を取れるスクールが充足しているため、無料、また勤務時間内で資格を取得することができる。 外部研修に関しても、常時、職員に周知を行い、研修への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修、リーダー研修は現在Zoom研修がほとんどであるが、その中で、グループディスカッションの時間があり、質問や相談、意見などを交わし、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテークにおいて、利用者本人から、現在の生活、過去の生活、またこれから望む生活をお聞きし、その中で不安や要望が言える関係が築けるよう、傾聴の姿勢に気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人からの要望に配慮しながら、家族の困っていること、不安、要望等もお聞き、話しやすい環境が築けるような、傾聴の姿勢に気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の生活環境を考慮しながら、要望に近づける支援を提案している。 また、将来に対して不安な方が多く、今後のサービスを含めた支援について提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する場合においては、常に自分が同じ立場になった場合を想定して、介護にあたるよう指導している。その為、職員は、本人との信頼関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や手紙の送付、電話連絡の際には、本人の様子をお伝えし、要望を聞くだけでなく、過去の様子などもお聞きしながら、職員と共に、支援の方法について話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように、面会や電話を取り次いでいる。 上手く会話ができない本人に変わり、話しの仲裁に入ることもある。	コロナ禍で面会は玄関ガラス越しとし、会話は電話を使用するなど、工夫をしている。現在は感染予防対策をした上で、玄関ホールや事務所で面会ができる。友人の手紙や電話は取り次いでいるが、利用者や友人が高齢化・重度化等も増え、疎遠になってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した席配置にしている。何かトラブルがあれば、その都度席替えを行っている。 全員で参加できる体操などを、1日2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的な処置が必要になり、退去された方に対し、転居先の相談を行ったり、転居後も電話等で経過をお聞きしたり、相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者全員に月に一度、要望を聞く機会を設け、記録にも残し、職員間でそこについて話し合いを行っている。またコミュニケーションと取ったり、日頃の行動、言動、表情から、情報収集を行い、ケアに反映できるよう話し合いを行っている。	毎月、時間を決めて利用者から要望を聞き、要望一覧表に記載し、職員間で共有している。今の利用者の思いや要望を聞き、言葉に出来ない秘めた思いや様子からも推し計れるよう、日々、コミュニケーションを図っている。新聞を読む、写経をする、通販雑誌を見るなど個々の時間を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを行い、本人の生活歴や馴染みの暮らし方、家族との関係、近所や知人との関係、入居の経緯を情報収集し、ケアに結び付けている。入居後も必要な場合はその都度、本人、家族に話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、スタッフ間で申し送りを行い、変化があった際は記録に残し、当日職員に限らず、全員の職員が把握できる環境を作っている。記録に残すことで、週に1度の訪看NSにも、心身の状態が把握しやすくなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、居室担当者職員によるモニタリングを行っている。また、本人、家族から希望や要望を伺い、多職種の意見も反映しながら、職員間でサービス担当者会議を行って介護計画に活かしている。	介護記録はデータで管理しており、入力情報は職員で共有している。毎月、居室担当者が介護計画内容のモニタリングを行い、3か月毎訪問の理学療法士の機能訓練計画も毎月職員がモニタリングし、ケア計画にも反映させている。家族に計画書内容を訪問時や電話で説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ファーストケアにて、日々の様子を介護記録に残している。気づきや変化などを記録に残すことで情報共有できている。また、ケアの見直しがあった場合も記録に残すことで、職員全員に周知できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、ニーズの変化があった場合は、早急に話し合いを行い、その状況にあったサービスの変更を行っている。また、そのサービスが適切であったか、モニタリングを行っている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度もコロナの影響で、外部のボランティアなどとの交流の制限があったが、散歩などをしてしていると、声をかけていただくこともあり、地域で見守っていただけていることを感じます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回のかかりつけ医の受診の際は本人、家族の意向を代弁し、適切な医療が受けられるように支援に努めている。 外部の医療を受診する際は、手紙等で情報共有を行っている。	往診の協力医が県外なため、医療費手続きが発生することを入居時に説明し、かかりつけ医を選択してもらっている。訪問看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、理学療法士が定期訪問し、全員または希望者に対応している。薬はQRコード管理で誤薬を防ぎ、隔月の血液検査と年1回健康診断を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の経過を記録に残している。特変、変化があった際はレポート申し送りに記録を残すと共に、看護記録に看護師に相談する内容を付箋に残し、週に1回訪問する看護師にも伝わりやすい環境を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを作成し、往診医から入院先の医療機関へ情報提供を行っている。入院時は時々状態の確認を行い、家族とも電話などで話し合いを行いながら、早期退院に向けて、必要な準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、ホームでの看取りについての説明を行い、本人、家族の意向について話し合いを行い、書面に残している。 重篤化した場合は、主治医、家族と話し合いを行い、本人が望む終末期のケアが行えるように努める。	前回、さらなる看取りの充実を目標達成課題として挙げ、「看取りケア気づきノート」を活用している。職員間の情報共有でチームケアの充実を図り、定期的な研修で職員の看取りの技術力や支援姿勢の底上げと向上に取り組んでいる。喀痰吸引ができる職員が数名おり、経験も積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えて、勉強会を行っている。また、コロナなどの感染症対策として、ガウンテクニックがしっかりできているか、リーダー、管理者で職員の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回、火災(地震火災を含む)訓練を行っている。また、1年に1回、水害訓練を行い、市の方へ、報告を行っている。 避難場所として、市の施設を利用する場合も想定されている。	定期的な火災訓練を行い、どの職員でもマニュアルに沿って消防署通報ができるようにしている。風水害対策計画もある。利用者用防災頭巾、職員用ヘルメット、備蓄品を準備している。事業継続計画(BCP)の作成予定である。	災害時の避難場所をどこにするのか、市と相談しながら、避難場所や移動手段等を確認し、事業所に留まるのであれば、行政や自治会等との連携が必要となる。具体的な避難体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの前には、言葉をかけ、確認をとってからケアを行っている。 人生の先輩であることを心にとめ、しつけのような声かけにならないよう、勉強会を行い、お互いに注意しあっている。 接遇に関する朝の唱和を行っている。	本社にコンプライアンス推進委員会があり、リーダーが参加している。勉強会での伝達講師となり、全職員がプライバシー保護と権利擁護を意識したケアに努めている。接遇5原則に基づいた対応で利用者として接しているが、不適切ケアとなっていないか、セルフケアチェックシートで確認する取り組みを検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的なケアにならないように、確認を行ってからケアに当たっている。言葉が上手く出ない利用者に関しては、表情や行動を観察し、その方の思いを察して、希望に添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、本人の体調、気分を考慮し、支援にあたっている。お部屋で過ごしたい方に関しては、自由にフロア、居室を行き来していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時はできる限り、本人に選んでいただいている。また、家族の希望などもあり、その希望に添うよう対応を行っている。理美容なども、できる限り、本人の意向を確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染予防の為、現在は3回の食事に関する、準備、食事作り、片付けに関しては控えていただいている。 利用者から要望を伺い、行事などで、希望に添えるメニューに変更している。	配食業者から食材が届き、調理専属の職員が作り、職員も同じ食事を食している。自助具の活用でゼリー飲料や流動食の摂取が可能になった人もある。血液検査結果は栄養状態の指標になり、適切な食支援につなげている。行事食の提供やケーキバイキング、お茶会等で利用者が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食分量、水分量を記録している。 看護師、栄養士と情報共有しながら、アルブミン値が低い方、水分量が低い方に関しては、助言、指導を受けている。心身の状態に応じ、食事形態、自助具などの見直しを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをできる限り本人に行っている。 上手くケアができない方に関して仕上げ磨きなどの支援を行っている。 歯科衛生士から、口腔ケアに関する指導、助言を受けている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンをや、排泄のサインを把握し、その時間やタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。また、おむつの使用量を減らすため、施設内で効果的なおむつの当て方などの勉強会を行っている。	個々の排泄パターンをタブレットで管理し、トイレ誘導の声掛けをしている。トイレ表示は利用者に分かり易く書かれ、トイレ内は十分な広さがある。職員間で排泄用品の使用を学び、利用者には不快感がなく、使用枚数を減らすことに努めている。家族は持参や通販利用が選択できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行運動や体操を行っている。また、目標の水分摂取量が達成できるよう、飲み物の種類を変えたり、声をかけるなどの工夫をしている。また場合により、排泄時には腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本にしている。なるべく本人の希望に添えるように、入浴の順番を考えている。また1人づつの入浴ではあるが、羞恥心を考慮し、パーテーションを使用するなど、プライバシーに配慮している。	週2回の入浴日は、各ユニットの職員がマンツーマンで入浴支援をしている。1階と2階のユニットで曜日が重ならないようにし職員の協力体制を作っている。機械浴はなく、重度の利用者には職員2人介助で安全安心な支援に努め、同性介助の希望にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠される利用者に対しては、昼食後に1時間程、居室で横になるなどの支援を行っている。また、本人の意向、眠気の状態に応じて、居室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診情報は往診記録のファイルがあり、それを閲覧することで、薬等の変更を確認したり、副作用や注意事項などは、リーダーが申し送りして記入し、業務に入る前に確認するなどの仕組みができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に本人の生活歴や嗜好などをお聞きし、施設に入居しても、可能な限り、本人の希望に添えるよう、環境を整えている。また、本人の能力に応じた役割に参加して頂き、張りのある生活を送っていただくよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に2回、散歩の日を設け、天候が良ければ、近所の散策に出かける。コロナ前は年に2回、花フェスタや成田山などに外出していた。来年度くらいから、外出が実行できる環境に戻ってくれるといいです。	入浴や行事がない日を散歩の日と決め、天気の良い日は外出している。外出できない時は体操や廊下を往復し、下肢機能低下を予防している。コロナ禍以前は、同法人の他事業所から車を借り、全員で観光地へ出掛けていたが、今年は歩いて行ける距離に公園があり花見を計画している。	

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの金銭管理は行っていないが、利用者、家族の意向がある場合は、個人の金銭管理の支援は可能である。 個人でお金を使用する場合は、家族に確認をとってから、支援にあたっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の家族、知人から電話があった際は取り次ぎ、やり取りができるよう支援を行っている。 耳が遠いなど、聞き取りが困難な場合は、やり取りの仲裁に入る場合もある。 施設に届いた手紙等は本人に必ず届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような、置物や貼り絵などを用意し、飾っている。 また、室内であっても花や緑を感じていただけるように、工夫している。 体温や湿度を確認し、最適な温度、湿度になるようエアコン、加湿器で調整を行っている。	居間の窓からは明るい陽光が入り、廊下も広く距離があり、毎日歩行訓練ができる。玄関やバルコニーにはプランターに植えた季節の色彩豊かな花を置き、2階ユニット入口は玄関らしい設えであり、各所に手作り作品を飾り潤いの空間になっている。どこも整理整頓や掃除が行き届き清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自己にて移動が可能な方は、自分の判断にて、居室で過ごす時間もある。 テーブル席ばかりでなく、ソファにも移動し、TVなどをゆっくりと鑑賞できる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、希望に応じて、利用者が以前から使用していた物や家具を持って来ている。 また、贈り物や、飾りなどを貼り、殺風景な部屋にならないように工夫している。	各居室にはクローゼットがあり、衣装ケースや小タンスごと収納でき、ベッド周りは広く安全に使える環境にある。居室扉に名前を貼り、居室間違いを防いでいる。使い慣れた物や好みのマスコットをベッドに置き、安心して居心地よく過ごせる部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、居間、お風呂、脱衣所の壁面には、手すりが設置されており、移動、移乗時の安全に配慮されている。 また、居室には名札があり、トイレは分かりやすいように、大きな文字で表示されている。		